

そこで、農政の基本目標を昨年に引き続いて「高い所得と安定した農業」を実現することに、新年度の事業を着実に推進することとしました。

★農業機械化センター
一と青年研修館

近代的な農業経営を担うのにふさわしい農業後継者を養成するため、その技術センターとして、下益城郡城南町に経営伝習農場を建設中ですが、前年度に引き続き約四千四百万円を、農業機械の技術を修得させるため、経営伝習農場に併設して農業機械化センターを設置するための経費約一千二百万円を、また、農村の青年婦人を対象とした青年研修館の設置費約一千二百万円を計上しています。

★畜産振興に四億五千万円

本年度は、国営事業として、大規模草地改良の実施調査費が計上されていますが、これとあわせて県としても、草地の高率利用を促進し、飼料自給体制の確立をはかるため、利用施設に関する調査費を計上。牧草の乾燥施設に対する補助や家畜の改良増殖の一環として、赤牛の改良をも進めることとしています。また、県の畜産試験場内に昨年より建設中の「ルーズバン牛舎」一乳牛をいっしょにたくさん飼い、労働力を軽減するために放し飼いにする一を本年も継続して整備し、乳牛の多頭省力飼育の試験を行ないます。

★農業構造改善事業
に六億二千万円

農政の総合施策ともいえる農業構造改善事業を推進するため、本年度においては、新たに十五地域を計画地域として指定し、農業構造改善事業はこれで市町村の七〇％を指定することになりました。農業構造改善事業を進めていくためには、国の補助だけでは十分でなく、しかも多額の経費を必要としますので、農家の負担を軽くするため、土地基盤の整備事業については、県単独で一億円以上の補助金を支出することになって、前年度より三億円増額することとしました。

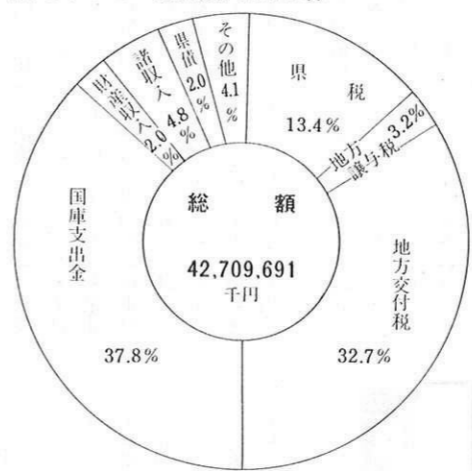
★農業金融に七億四千万円

農業の近代化にもない、機械導入等に必要資金を行なうため、農業近代化資金の融資枠を本年度は二十一億円とし前年度より三億円増額することとしました。

★農業団体の整備強化

農業団体が農業近代化の推進団体としての機能を発揮できるよう、これまでに引き続き助成を行なうとともに、特に本年度は、農業協同組合の合併を促進するために必要な助成を行なう「農業協同組合併助成法」に定める助成の条件が昭和四十一年三月三十一日までに合併した組合ということになって、

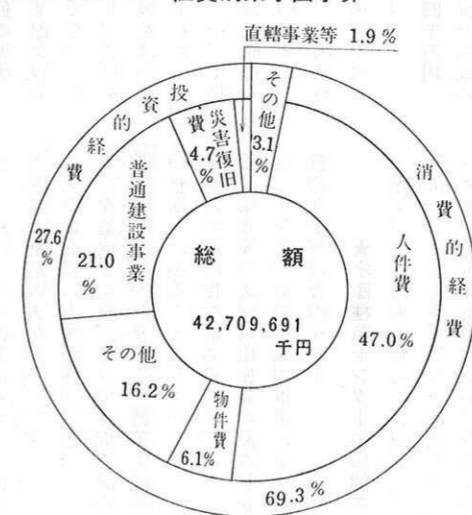
昭和40年度当初 款別県才入予算



昭和40年度当初 款別県才出予算



昭和40年度当初 性質別県才出予算



県としてもこれに応じて、本年度末を目標に、一市町村一農協の合併が実現できるように強力に指導することとしています。これに要する経費約六千万円を計上しています。

★蚕業試験場の施設を整備

蚕業試験場の鹿本郡植木町への移転工事は昨年度から実施中ですが、昨年度は用地購入、整地工事及び一部養蚕の移転工事を終り、本年度で建物関係は一応完了する予定となっています。

なお、県下養蚕家の期待にそなうよう各種試験に必要な施設を整備することとなっています。経費として八千万円を計上。

★土地基盤の整備
開発と農地保全

農業の土地条件を整備し、水利施設を近代化するため、各種の土地改良事業について、継続事業を引き続いて実施することともに、現在まだ着手していない地域の開発を進めるため、緑川用水、羊角湾、氷川、八代平野、中球磨等の諸地域の調査設計を行なうこととしています。

県営土地改良事業については継続八地区の事業を実施するとともに、新たに八代平野、玉名南部地区の実設計を行なうこととし経費約三億二千万円を計上。

一方、団体営の土地改良としては、末端ほ場条件の整備をはかるため、灌漑排水、畑地灌漑、農道等の事業を進めることとし、約七千万円を計上しています。

農地防災事業については、水対策としての天君ダムの工事、玉名市梅林の湛水防除事業、その他海岸保全事業、干害恒久対策事業を中心として実施し、これに要する経費約五億円を、又これら事業のほか、干拓事業として約一億四千万円、ほ場整備に二千五百万円、開拓地改良事業として約五千万円をそれぞれ計上しています。

林 務 十二億円

最近の熊本県の林業は、一時停滞の状況を示していましたが、これを脱却して昭和三十八年度林業所得は、百四十四億円に達し、前年に比べて一四・一％の増となっています。

本年度は、この傾向をさらに助長させて、林業所得を増大させるために、長期的な施策を行なうとともに、短期的な面からの施策もあわせて進めることとしました。

★林業にも構造改善
事業を推進

この事業は、農業の場合と同じく、林業の総合的な施策として、本年度から新しく実施することになり、林道等の基盤整備、資本装備の高度化がこの事業の主な内容です。本年度は、球磨郡球磨村と阿蘇郡小国町の二地域で実施。

特に、地元の負担を軽くし、事業を円滑に実施するために、基盤整備事業については、県単独で補助金を支出することになっており、総経費約二千八百万円を計上。

★森林病虫害防除

森林病虫害の防除経費として、本年度に約四千万円を計上。特にマツタイ虫による松の被害が大きいので、ことしは新しい薬剤を使用することとしました。これは、県林業研究所が、二年間応用試験をした結果普及することにしたもので、主産地の松林五百ヘクタールに応用する計画です。

★林業機械化センターを設置

今年の新しい事業の一つとして、人吉市の県木炭指導室に、林業機械化センターを併設することとしました。大型機械の技術の習得を中心に、短期の研修を行ない、林業後継者の育成をはかりながら、林業に従事する青年にとっても魅力のある林業にしようというものです。この経費として、約三百万円余を計上。

★特殊林産物の振興

林業経営者の所得を短期間に伸ばすため、竹林を園地化して竹の質の向上と増産をはかり、昨年に引き続き竹材の販路を拡張するよう指導援助を行なうこととしました。また、推茸の価格の安定措置については、新たに本年度から、利子

補給により価格の調整をはかることとし、特殊林産物の多角的な振興を促進するための経費約五百万円を計上しています。

★治山事業

本年度から新しい構想で始められる国の治山五ヵ年計画を実行に移し、昨年度に引き続き、特殊緊急治山事業を実施するとともに、三十八年度災害による大規模な山地崩壊の復旧をはかることとしました。これに要する経費として、約三億一千万円を計上しています。

土 木 七十九億五千万円

★道路と橋

道路五ヵ年計画にそい、県としても毎年、重点的に事業を進めてきましたが、道路は県の産業開発の重要な基盤をなすものであり、建設事業のなかでも特に重点として力を入れることとしました。国の直轄事業として整備を急いでいた国道三号線の工事は、有名な三太郎峠のトンネル工事の完成に引き続き、ことしは芦北南部の舗装を完了する予定。

一方国道五十七号線についても、今年中に一の宮―熊本間の改良舗装工事を完了させる予定です。このほか、熊本―佐賀線、熊本―宮崎線等の工事を進めると